

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	言語教育研究センター (教務機構)
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置 (院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント (FD) の実施状況と有効性

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 「言語教育の全学的体制に係る人事構想」に基づく言語教育担当教員の構成の枠組みを2013年度までに再設定する。	→現在の「言語教育の全学的体制に係る人事構想」に代わる新たな枠組みの創設。	C	C	C	C	/
2. 各言語の教育の質向上と全学提供体制の改善のために、S T比の改善を図る。	→各言語におけるST比。専任教員・常勤講師の増員数。	C	C	C	C	/
3. 常勤講師の採用活動を円滑に進めるための関係規程を2012年度を目途に整備する。	→「言語教育常勤教員に関する規程」その他、関係諸規程の改定。	B	B	B	B	/
4. センターとしてのFDの場であるセンター会議、語種ごとのFDとしての各語種別懇談会を定期的で開催する。	→センター会議、各語種別懇談会の開催数。参加者数。成果報告。	A	A	A	A	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

## 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	「言語教育の全学的体制に係る人事構想」に代わる新たな枠組みは、現段階では意見交換の途中であり、具体的な骨子を策定するまでには至っていない。
目標2	英語については、特別契約教員の増員が図られ、ST比の改善は実行されつつある。しかし、英語以外の言語（特に中国語・朝鮮語・スペイン語）に関しては、学生のニーズや言語習得のレベルに対応した授業運営ができるほど十分な教員数には達しておらず、学生を希望通りの語種のクラスに受け入れられていないケースもある。
目標3	2012年度に「言語特別契約教員に関する規程」を定めると同時に「言語教育常勤教員に関する規程」も一部改正したものの、英語以外の言語に関しては、関係諸規程の改定には至っていない。
目標4	センター会議は定期的実施され、さらに各言語ごとのFDとして懇談会も定期的開催している。それらの成果は、毎年発行される「センター年報」で公表されている。
備考	